

# 生薬「芍薬」生産を目的とした切り花兼用シャクヤク品種 の選定と栽培条件

利用対象：黒ボク土壌条件下の花き花木生産者

## 背景と目的

### ○生薬需要の拡大と市場動向

- ・高齢化による生薬需要の急拡大、市場価格高騰が進んでいます。
- ・国産生薬（現在 12% / H26）の安定確保が望まれています。

### ○植木生産地に広がる遊休農地

- ・景気低迷、公共需要の減少によって緑化木生産面積の減少が続いています。

### ○鈴鹿で薬用として栽培実績のあるシャクヤクについて、コンテナと露地栽培で品種について収量性・生薬成分の比較を行いました。

黒ボク土壌を活用した生薬「シャクヤク」生産では、切り花兼用種の中でPEO含有率の高い「卯月の雪」、「春の粧」、「華燭の典」を使用し、商品性の高い直根を得ることができる露地栽培が有効です。



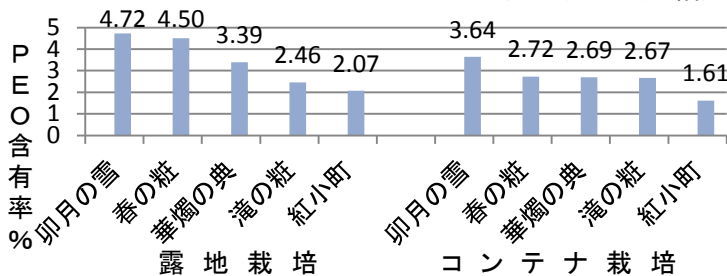
卯月の雪  
(白一重中輪)



春の粧  
(ピンク八重大輪)



華燭の典  
(濃赤八重巨大輪)



根の形状  
(露地条件)

図1 栽培方法の違いが4年生シャクヤクの品種別PEO含有率に及ぼす影響

PEO（ペオニフロリン）とは：シャクヤクの生薬としての有効成分です。  
日本薬局方（生薬としての品質基準）では 2.0%以上と定められています。

栽培に当たっては、「薬用シャクヤク栽培マニュアル」を参照してください。



お問い合わせ先	花植木研究課 内山達也・小林泰子 中央農業改良普及センター 長谷川治基	電話 059-370-4977 電話 0598-42-6705
参考になる資料	三重農研HP: <a href="http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm">http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm</a>	